

日本の展望委員会 社会の再生産分科会第二回 議事要旨

開催日時 平成 20 年 10 月 2 日 昼 12 時～13 時 30 分

出席者 猪口・江原・大沢・大隅・南・橘木 オブザーバー 中田

欠席者 進士・磯部・井上 (敬称略)

議題 1 前回議事要旨案の確認
訂正なく承認された。

議題 2 委員長の「報告書骨子案」について討議し、以下のような意見が出された。

- ・報告書の題名などに、「少子化」という言葉が欲しい。
- ・奨学金拡充に関する記述も欲しい。有償の奨学金ではなく無償の奨学金が重要。民間で奨学金を出すところに税制上の優遇策を行うなどの制度変更も重要。
- ・民間奨学金だけでなく公的な教育投資も不足している。一人当たりの高等教育に対する支出は OECD の中で最低である。
- ・報告書の哲学を明確にするべき。社会的包摂というのが良いのでは。
- ・羅列的な報告書は印象が薄い。フォーカスを明確にするべきだ。今回のように検討時間が短い場合は特に、方向を明確にする必要がある。その方向に沿って統計的データを揃えていけばよい。
- ・日本では交通事故死亡者の中で歩行者の死亡率が高い。歩道の整備率が低いからだ。子ども・老人など交通弱者への配慮が少ない。社会の再生産ということでは、うまれた命をどのように生かすかということも重要だ。事故や自殺なども重要な問題だ。
- ・街づくりや防災などハード面も重要な要素なので、磯部委員や進士委員に期待している。
- ・医療について、総会での会長の答弁の中に、医療制度の問題はこの委員会の担当という内容の発言があったが、この委員会で担当するのはあくまで社会の再生産、つまり特に出産や育児に関連する医療の問題なのではないか。

- ・ 出産・育児だけでなく、介護も重要。その二つは抜かせない。但し医療制度全ての問題を扱うということはとてもできない。
- ・ 小児科医療の問題は、母親の不安に対する対応でかなり改善する。電話サービスがあれば、夜間小児科病院に行かなくても安心できる母親がかなりいる。
- ・ 産科・小児科の医師・看護師不足の一面には、女性の医師や看護師女性たちが過重労働で、育児と両立できず職場を撤退しているということもある。労働条件の整備も重要だが、一度やめた医師や看護師などの専門家を電話サービスその他の仕事の中で、生かしていくことも重要ではないか。

議題3 今後の進め方について

- ・ 委員の補充
教育に関して、連携会員の耳塚寛明先生（お茶の水女子大学）をお願いすることで合意した。委員長から連絡することとした。
- ・ 今後の会議について
次回会議の開催については、事務局を通じて日程調整することとした。
叩き台については、本日の意見などを踏まえ、メール会議等を活用してさらに検討していくこととした。